

令和 7 年度 第 2 回 学校運営協議会

議事録

日 時 令和7年11月21日（金）14：30～16：30

場 所 泉北高校会議室

出席者：（委員）兼子様 中村様 池内様 山下様 宮田様

（学校職員） 校長、教頭、その他教員

授業・施設見学

（1）授業 全授業対象

（2）施設

- 食堂：エアコン、探求ラボ
- グラウンド側花壇：人工芝
- シェアブラリー

● 取り組みの進捗報告

（1）課題研究

○総合科学科 金島ゼミ

生物では、班毎に生徒が興味を持つ内容について、教員とともに吟味を行い、探究テーマを決めて実施している。生物1班では、堺市環境政策課環境人材育成事業の募集に手を挙げて、申請が通ったため現在連携をしている最中である。連携内容としては書類制作や物品の支援、講師の手配等の支援をいただき、環境カウンセラーに指導をいただいている。現在はデータを集めている最中であり、なかなか期待しているデータが集められていない。より広い視点でデータを取り、研究を進めていく必要がある。今後の予定として、11月末に中間発表会、2月中旬に堺市環境人材育成事業の報告会がある。

○国際文化科 鈴木ゼミ

- ・ 8名の教師で1名当たり20名程度の生徒。
- ・ インスタグラムの作成、フォロワーは800名弱。
- ・ SNS活用の研修へ参加し、「泉北高校の魅力発信」を行っている。
- ・ 企業と連携し、動画制作を行う。（QMO Design 株式会社）
「企画会議→動画撮影→編集→投稿→分析」を1クールとし、3クール実施予定。
- ・ 「生徒が主役」の発信でリアルな泉北高校の魅力を伝えていく。

(2) 学力・生活調査（スタディサポート）

○1 年（前田先生より）

現時点で2回実施済。

【国際文化科】

国語：上位層は GTZ ランクをキープしたが、下位層が増加している。

英語：全体的に伸びている。

【総合科学科】

数学：上位層がランクを低下させた。

英語：上位層が増加したが、最下位層も増加。

<全体的なランクの変化>

国語：  数学：  英語： 

<分析>

- ・勉強時間の減少している。（平日：32分、休日：49分）→日々の勉強を進める仕掛けづくりが必要である。
- ・全体的に学ぶ意欲が高く、授業展開による主体性を向上させる仕掛けづくりも関係していると考えられる。
- ・古文に苦手意識があり、勉強方法がわからないという生徒もいる。

<今後>

目標 → 対策

- ・基礎学力の向上→スタサポ上位者への表彰
- ・学習習慣の定着→進路 HR でのデータを用いた声掛け
- ・明確な進路希望→オープンキャンパスワーク、卒業生による講和

○ 2 年（角田先生より）

56 期スタディサポート結果

【国際文化科】

国語：全体的に上位層が低下

英語：最上位が少し伸び、他は現状維持。

【総合科学科】

数学：最上位層の GTZ ランクがやや伸び、下位層が改善。

英語：最上位層がランクキープ、下位がやや改善。

<要因>

- ・数学、英語の平日の学習時間が「ほとんどしない」がほんの少し改善された。
- ・進路講演を行ったこともあり、意識的にも2年生の冬休みから勉強し始めないといけない意識がついた。
- ・学習方法について指導をすることで、大学受験への意識が向上した。
- ・第一回と比較して、大阪公立大レベル（Aゾーン）の学習時間の分布に近づいている傾向がある。
- ・しかし、上位層でも「ほとんど勉強しない」が多く、全体的にはまだまだ学習時間が足りていない、自頭で乗り越えようとしてしまっている。
- ・加えて、就寝時間と学力層に大きな相関があった。

<今後の取り組み>

- ・抜き打ちテスト
- ・GTZ 学力層ごとに課題の提示
- ・進路通信を短期間で発行
- ・スマホ依存からの脱却

（3）質疑応答

質問：（兼子様より）1-2 の授業見学から。計算はコンピューターの Excel と相性いいが、コンピューターを用いた事例はあるか。

回答 （中戸先生）

2 学期に統計的な推測を行った。授業ではエクセル・スプレッドシートを使用して、アンケートの結果の分析を行った。理論値と実数値のギャップなどに驚く場面はあった。

ただ、「推測」であったり「分析」などにおいて実験データを集めることは今後必要だし、授業も興味深い内容にできるのではないかと思います。

質問：（池内様より）授業見学から。法律的な話のような高校 1 年生にとっては難しい内容を扱った時、どのような反応をしているか。

回答：（前田先生）

法律の話をするとうるさいと感じているような印象がある。自分たちの実生活に落とし込んだ内容（SNS 等）を用いて授業を行うと理解が深まっている様子が伺える。今後この知識は必要であるので、授業も興味深い内容にできるのではないかと考えているところです。

講評：（中村様より）

・プロジェクターを使用しながらメリハリのある授業ができている。そのプロジェクターと紙媒体を使用することで効率よく・効果のある授業が行われている。

・国際文化の探求活動については、生徒が主体的に取り組んでいる姿が印象的であった。生徒それぞれの個性（長所）をいかして発表をするという力は社会に出ていく上で非常に重要であると感じた。

・そのほかの探求活動でも、他の自治体の活動を堺市に還元できるような活動が行われているので非常に泉北の特徴を生かした活動が行われている。

講評：(田中様より)

- ・教室の規模が少し小さい。災害が起きた時に安全面を考えると改善していく必要が考えられる。
- ・PTA として環境をテーマに取り組んだが、国際・総科ともに特色（らしさ）があまり見受けられなかった点（特に国際らしさ）が残念に感じた。もっと「らしさ」を出すことで学校特色枠の利用も意味のあるものになるのではないか。
- ・生徒の学習環境を整えていく（sharebrary のような自由な形の H R 教室を設ける等、あえて「公立高校らしくない」、「泉北らしさ」を）
- ・固定概念にとらわれず、自由な発想で色々変えていく必要があると感じる。

質問：(兼子様より) 交換留学は今はいないですか？

■ 回答（鈴木先生）

いないです。→海外留学生がいることで在校生にとってもかなり刺激になると思うので、検討願いたい。

講評：(兼子様より)

- ・3年生の車の話「講演会」において、気になるのは、「質問ありますか？」に対しての反応がない。「日本人らしい」のかとは思いますが、残念だった。自信を持って意見を発信できるような環境を作ってほしい。社会に出た時に自分の意見を発言できる力は不可欠になるので、養っていく必要がある。
- ・1年国際の探究活動を見て、プレゼンのスライドをみると、デザインの統一性があまりみられなかった。→現代社会において、プレゼンのテンプレートのルールがある程度できているので、その提示・指導を生徒にしてみるとよりよい発表に繋がるのではないのか。
→京都の課題・解決策を堺市に還元するというテーマの中で「なぜ堺市に還元すべきなのか」という点を生徒は理解できていなかったため、当事者意識を高めることも活動を始める前に重要である。
- ・フードミルの導入がすごい。しかし、コスト面において、電気代が問題になっていく可能性がある。何 W の電力でどれぐらい稼働するのか、エコロジーの視点で考えていくのも必要かもしれない。

質問：(田中様より)

・新聞を取っていると思うが、経済新聞もとっているのか？また、新聞購入にあたっての経費はどこから出ているのか。

回答（校長先生）

校長マネジメント費からでている。大阪府の指示で、物事を多角的に捉えられるようになることを期待して購入するように指示がされている。

質問（田中様）

実際に新聞を取ってみている生徒はいるのか。「国際らしさ」を出したり、生徒の興味を惹くためにも、英新聞を取り入れて生徒の英語力向上につなげることはできるのではないか。

また、新聞の後処理はどのようにしているのか。

回答（西川先生）

4月からのものは残している。年度を超えたものは廃棄になる。

→そこをうまく有効活用できたら、民間の企業なども欲しがると 思う（田中様）

講評：（古橋様より）各新聞社によって異なる表現をしており、それだけでもの見方やイメージも変わるもので、うまく新聞を有効活用して欲しい。

講評：（中村様より←確証ありません。すいません。）金融機関に勤めていた際、新聞を紙ではなく、電子で見ていた。トピックだけ5紙まとめて一目でわかる形にすれば比較ができて面白い。

回答（角田先生）

いま、広報部長の東山先生が実施している。各社同じ内容でも異なる見出しや言葉の表現を使っていることが一目で比較できる工夫がされている。

報告：（大野先生より）新聞の活用の例として、芸術の観点からも新聞を読むという授業を実施している。

質問：（古橋様より）中学生の半分は私立専願志向している。それも、私立は生徒がいないと「倒産」になるので、生徒を集めるという目標のために「企業努力」として学校の広報活動を行っている。この面では公立学校では勝てないのではないか。学校広報の面で、コンサルタントを入れるなどの案は出ているのか。

回答（校長先生）

学校現場（教員間）ではでていないが教育委員会ではでている。年10回以上は指導を受けているが、公立ではいまだに議論中。

講評：（兼子様より）

- ・総科の探求活動を見学し、特に理系の探求活動は大変だと思うので、先生間の協力があってこそ規模の研究ができていると感じている。
 - ・誰かに負担が偏りがちなので、校長先生に授業時間等の面等うまくマネジメントしてもらいたい。
 - ・動画作成に関して、プロと素人はやはり技術的に差がある。なので、動画を見比べて研究し、技術を身に付けてほしい。
 - ・1年生の数学が下がっていることに関して。1年制の数学の授業で難しさを感じてしまい、落ちこぼれてしまう生徒が多い。大学が難しい問題を出しているのも原因の一つではあるので反省する部分はあるが、1年後期で補充できるような授業を実施してもらいたい。
- 例えば、スタサポ2年生での結果で、上位20%の生徒でほとんど勉強していない生徒がいるとあったが他校と比較してどうなのか？

回答（角田先生）

比較すると泉北は成績の面で見ると英語は両科ともに頭一つ抜けているが、数学がやや弱いというデータがある。勉強時間も他校と比べると足りていない。

講評（兼子様）他校の話をしてみて、生徒の意識改善に努めてみてもいいのではないか。

スタディーサポート 1 年生の数学が 2 回目でも下がってしまっている。1 年生の数学の授業が難しいということは、理系科目離れを加速させている。1 年生の後期あたりに数学等理系科目は丁寧に対応していただきたい。

講評：（田中様より）校則等もかなり昔に設定したものがあれば、時代や実情に合わせて更新していったほしい。何か要望があれば言ってください。

質問：（栗林先生より）大学全般からして、これから生徒に求めている像は何か。

回答（兼子様より）

- ・大学が学生に求める能力は教授によって違う。
- ・偏差値に重きを置く先生や違う先生もいるが、全体に共通しているのは、確かな基礎学力がある生徒を求めていること。
- ・ある程度の上位層の大学ではかなり基礎学力を重視しているので共通テストに力を入れていただくといいかと思われる。
- ・ただ、公立大学など前期・後期でも求めている能力が違う。

質問：（角田先生より）中学校保護者・生徒がこの学力帯の公立に求めるものは何か。

回答（古橋様）

- ・現中学生のうち半分が私学専願だが、理由として私学の方が入口と出口がはっきりしているところが中学校の目線で見ると見通しが立てやすいので選ばれやすいと思う。
- ・出口（指定校などでの進学実績）を明確に伝えて魅力発信をしている私立学校が多い。
→出口の明確化をすることができると、魅力的に映るのではないか。
一方で泉北のブランドは根強い。高齢の方はとても泉北を勧めている。
- ・公立中堅校に入ると、大学受験で苦労することもある。（私学のように出口（指定校）が用意されておらず、一般入試で進学しようとする生徒が多くなるため）

質問：（角田先生より）先ほどの話を踏まえると、高校に入学してからどのような学びができるかではなく、どのような大学に行けるかというほうが高校選びで重視されているのか。

回答（古橋様）

- ・保護者の選択として、そして根本的に中学生の学習時間も減少しているため、出口の明確化の優先度が高いのではないかと考えられる。

回答（田中様）

- ・保護者としては、雰囲気と実績を重要視している。
例えば ████████ は上位 50 人は専願で ████████ に進学できる（在校人数は 160 人）し、今まで不合格になったことはない。

- ・学校として特色を持って、生徒に魅力的に映ることも重要であると感じる。
- ・制服や食堂などそういった雰囲気面を生徒は見ていると思う。

- 補足：（兼子様より）指定校推薦に関して

- 一般入試枠以外の割合を増加させようと国から言われている。指定校推薦を行うと高校と大学をつないでおかないといけない。私立の管理職層は組織面で大きく変更はないが、公立高校では変更があるため難しい。しかし、不可能ではないと考えている。

- 事務連絡

- 次回第3回 1月30日(金) 午後（詳細は教頭から追って連絡します）